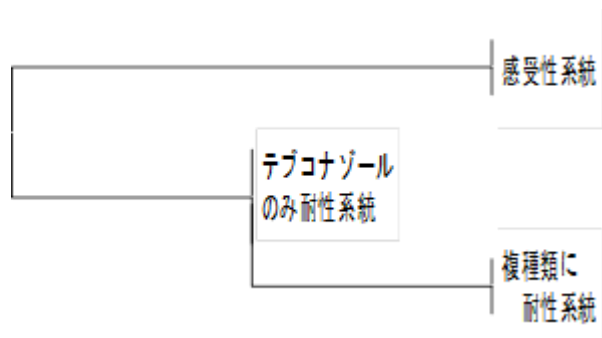


遺伝子診断でDM I 剤耐性ナシ黒星病菌を低減！

梨は本県の主要な果樹です。春先に出る黒星病という病気が、年々増加しています。DM I 剤が有効ですが、耐性菌の出現が増加の一因とされます。調査したところ、感受性と耐性菌の3グループあることが分かりました。従来の生物検定法は労力や時間がかかるので、DNA診断で3グループを迅速・正確に診断できる特異的な検出試薬（DNAマーカー）を開発しました。これにより手軽に検定できるようになりました。耐性菌が増えると薬が効かなくなるので、耐性菌の発生防止に有効な安全・安心な梨生産の推進ができるようになりました。



果実の黒星病
(黒い斑点が病原菌)



DM I 耐性を遺伝子配列で分類
(3つのグループに分けられました)

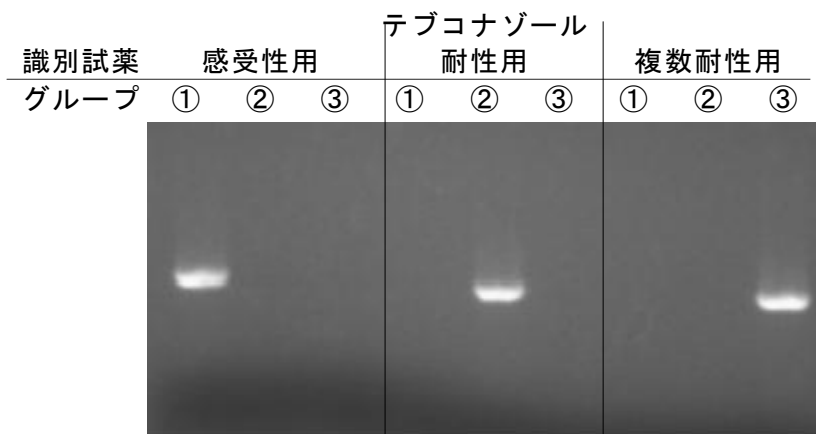


図5 DM I 耐性菌に特異的PCR電気泳動像

グループ ①：感受性菌、②：テブコナゾール耐性菌、③：複数耐性菌
(識別できると白いバーが現れる。それぞれのグループを特異的に識別できました)